

令和元年度事業報告書

- ・ケアハウスわらべ苑
- ・ヘルパーステーションきずな
- ・認知症高齢者グループホームきらら
- ・小規模多機能型居宅介護きずな
- ・小規模多機能型居宅介護事業所水前寺きらら
- ・認定こども園わらべ
- ・わらべっこ保育園
- ・介護付有料老人ホームきずな
- ・介護付有料老人ホーム特定施設きらら

令和元年度事業報告

ケアハウスわらべ苑

社会福祉法人 敬人会

1. 基本事項

- ・利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるようにする。
- ・入居者が安心して過ごせるよう、快適な生活・生活環境を提供し、生きる喜びと張り合いを感じていただけるような、施設運営をする。
- ・地域の福祉向上の一端を担い、高齢社会における福祉貢献をする。

2. 入居者サービスに関する事項

- ・栄養管理に基づく食事や、できる限り温かい食事の提供を心がけた。
- ・年に2回給食に関するアンケートを実施し、また、熊本市役所職員による入居者への給食に対する意見聴取が行われた。
- ・家族懇談会を実施し、家族の給食に対する意見を聴取すると共に当方の方針を伝えた。
- ・個室浴の入浴準備、清掃を徹底し、どの職員が掃除をしたのか、誰が見てもわかるよう名札をさげるようにした。
- ・月に一度、浴室や排水溝の消毒を行い、清潔で快適な入浴を行って頂ける様心掛けた。
- ・疾病、負傷などの緊急時の対応については、各入居者の担当ケアマネ等との連携を図り、病院受診等の支援を強化した。
- ・施設内の環境美化に努め、毎食後レストランの清掃や、毎日通路掃除も行った。
- ・ボランティア講師による、毎月2回の歌う会や毎月1回の大正琴・お茶会、毎週日曜日のカラオケ等の入居者の趣味活動を援助した。

3. 職員に関する事項

- ・職員は、社会福祉への見識を高めるよう努め、法改正の勉強会や情報を共有し、知識を深めた。
- ・生活相談員は、資質の向上を図る為、研修会等へ積極的に参加し、また自身の資格や技術の習得も積極的に行った。
- ・職員間の和と協調の精神を基本に、温かく優しい心で入居者の接遇に努めている。

4. 安全、衛生管理に関する事項

- ・快適な生活環境を提供し、入居者が安全に安心して暮らせるよう努め、施設設備等の点検、保守管理を徹底している。
- ・1年に2回以上の消防訓練を実施し、職員全員、初期消火や応急救護の訓練を受け、知識・技術向上に努めた。

平成31年・令和元年度 年間行事

	日程	年間行事	月間
4月	2回 1回		横山先生の歌う会 大正琴
5月	5日 1回 1回 1回	行事食	横山先生の歌う会 お茶会 大正琴
6月	2回 1回 1回		横山先生の歌う会 お茶会 大正琴
7月	7日 27日 2回 1回	行事食 夏祭り	横山先生の歌う会 大正琴
8月	14日 2回 1回 1回	ピアノ演奏会	横山先生の歌う会 お茶会 大正琴
9月	12日 2回 1回	敬老会	横山先生の歌う会 大正琴

令和元年度 年間行事

10月	2日	レントゲン検査	
	27日	樹木消毒	
	29日	西原小学校職場見学	
	30日	わらべこども園ハロウィン訪問	
	2回		横山先生の歌う会
	1回		大正琴
	1回		お茶会
11月	28日	わらべこども園発表会見学	
	2回		横山先生の歌う会
	1回		お茶会
	1回		大正琴
12月	11日	こども園の餅つき参加	
	13日	忘年会	
	11・18日	消防訓練	
	25日	クリスマス会	
	2回		横山先生の歌う会
	1回		大正琴
1月	14・16日		横山先生の歌う会
	17日	新年会	
	24日		大正琴
2月	6日	家族懇談会	
	7・12日		横山先生の歌う会
	15日		大正琴・お茶会
3月	4日	感染症研修	新型コロナウイルス
	11日	消防訓練	感染予防の為
	12・14日		中止

1、年齢別・性別の状況

令和2年3月31日現在

区分 性別	60～64	65～69	70～79	80～89	90以上	計	平均年齢
男			3	2	6	11	87.5 歳
女			3	20	16	39	88.4 歳
計			6	22	22	50	87.9 歳

2、在所期間の状況

令和2年3月31日現在

期間 性別	1年 未満	1年 以上 ～ 3年 未満	3年 以上 ～ 5年 未満	5年 以上 ～ 10年 未満	10年 以上 ～ 15年 未満	15年 以上	計	1人当たり 平均 在所 期間
男	0 人	3 人	3 人	4 人	1 人	0 人	11 人	3.2 年
女	4 人	8 人	13 人	11 人	1 人	2 人	39 人	3 年
計	4 人	11 人	16 人	15 人	2 人	2 人	50 人	3.1 年

3、月別利用人員内訳(延べ人数)

4月	50名(1500)	5月	50名(1544)	6月	50名(1485)
7月	50名(1549)	8月	50名(1541)	9月	50名(1500)
10月	50名(1550)	11月	50名(1486)	12月	50名(1526)
1月	50名(1550)	2月	50名(1450)	3月	50名(1550)

退去

令和1年 5月25日 1名
 令和1年 7月30日 1名
 令和1年11月10日 1名
 令和1年11月30日 1名

入居

令和1年 6月16日 1名
 令和1年 8月10日 1名
 令和1年11月25日 1名
 令和1年12月25日 1名

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人 敬人会
ヘルパーステーションきずな

令和元年総評

1、ヘルパー事業について

- ・4月を頂点に売上が下降しております。長年お付き合いのある利用者様の入院・退去・死亡が大きな原因といえます。
- ・売上が良かった平成29年と比較すると、要介護者の利用数が減っている事が売上に繋がらない大きな原因かと推測する事ができます。1件の単価も安くなっています。また、わらべ苑の利用者様が思ったほど増えず、外部に出る事が多くなっているので、数多く訪問できないのも、一つの要因だと思われます。
- ・下期は何とか180万をキープするにとどまっています。
- ・新規に関しては需要と供給があわず、受入がなかなか厳しい状況でした。
- ・登録ヘルパーの求人を12月にだして頂いていますが、応募はありません。

2、総合事業について

- ・利用者様主体の考えを基に、わらべ苑は同一建物減算になりますが、支援を続けており皆様とても喜んでおられます。わらべ苑と近隣周辺に関しては、総合事業は今後も増やして行きます。

3、障がいサービスについて

- ・今期初めて重度障害者様を受け入れております。
- ・お問い合わせは頂くのですが、なかなか受入られません。時間が合わなかったり、場所が遠かったり、人員配置が難しかったりと中々条件があいません。確実に数字は伸ばせていますが、これ以上増やす事は考えておりません。

4、介護タクシー

- ・介護タクシーの利用件数は ほぼ横ばい状況です。福祉タクシーを休止にして、新規受入もほぼ行っていないので、現状をキープする事にとどまっていますが、ご利用者様にはとても喜んで頂いています。

5、自費について

- ・現在の自費利用は、主に病院付き添いと総合事業の方の入浴時等の足りない時間の補いが殆どです。自費についてはゆるやかですが、売上も伸びています。介護負担軽減にお役にたっていると考えられます。今後も伸びる分野と考えられま

6、総合評価

- ・利用者様人数を見ていただいて(資料参照)分かるように、総合事業の方の変動は殆どありません。ですが、介護の方は如実に減少しております。介護の方は週何回も利用される方が多くいらしたので、かなりの打撃になっております。これを埋めることは直ぐ直ぐには難しいですが、現在この地域での総合事業の受け入れ先はないに等しいと聞いております。当事業所では引き受け可能である事をアピールして行きます。

令和1年度利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護	39名	38名	35名	35名	40名	40名
総合	19名	19名	19名	19名	19名	19名
障がい	5名	5名	5名	7名	6名	6名
合計	63名	62名	59名	61名	65名	65名

売上

	4	5	6	7	8	9
	¥2,030,780	¥1,831,390	¥1,733,340	¥1,705,520	¥1,873,842	¥1,689,270

タクシー利用人数

	4	5	6	7	8	9
介護(回数)	93回	103回	153回	128回	148回	119回
(人数)	15名	20名	20名	18名	名	21名
介護(実績)	¥57,800	¥31,000	¥53,400	¥51,600	¥62,400	¥45,400
福祉(回数)	8回	12回	8回	19回	12回	16回
(人数)	3名	8名	9名	11名	8名	13名
福祉(実績)	¥8,560	¥10,400	¥11,260	¥24,610	¥17,480	¥21,560
タクシーチケット	¥900	¥1,100	¥1,100	¥1,550	¥0	¥0
運賃のみ売上	¥65,460	¥40,300	¥62,460	¥76,210	¥79,880	¥66,960

自費

	4	5	6	7	8	9
	¥48,800	¥65,300	¥79,500	¥83,450	¥54,750	¥95,250
延べ人数	4人	10人	5人	6人	8人	12人

障がい

	4	5	6	7	8	9
	¥74,170	¥88,870	¥98,830	¥110,870	¥129,240	¥112,950
延べ人数	5人	5人	5人	5人+重度	5人+1人	5人+1人
	27回	31回	37回	41回	47回	48回

延べ利用回数	4	5	6	7	8	9
介護	519回	504回	432回	429回	458回	391回
総合支援	115回	113回	106回	113回	122回	111回
障害	27回	31回	37回	41回	47回	48回
タクシー	101回	115回	161回	147回	160回	114回
自費	26回	27回	29回	29回	20回	25回

令和1年度利用人数

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	39名	39名	39名	39名	40名	40名
総合	21名	23名	23名	23名	22名	21名
障がい	7名	7名	7名	6名	8名	8名
合計	67名	69名	69名	68名	70名	69名

総売上

	10	11	12	1	2	3
	¥1,885,440	¥1,848,950	¥1,803,740	¥1,788,990	¥1,724,910	¥1,865,370

タクシー利用人数

	10	11	12	1	2	3
介護(回数)	114回	120回	123回	111回	109回	120回
(人数)	15名	17名	15名	13名	15名	12名
介護(実績)	¥42,800	¥43,200	¥48,600	¥40,000	¥42,200	¥50,400
福祉(回数)	0回	0回	0回	0回	0回	0回
(人数)						
福祉(実績)	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
タクシーチケット	0枚	0枚	¥0	¥0	¥0	¥0
運賃のみ売上	¥42,800	¥43,200	¥48,600	¥40,000	¥42,200	¥50,400

自費

	10	11	12	1	2	3
	¥76,500	¥78,210	¥53,550	¥46,700	¥49,800	¥59,550
延べ人数	11人	11人	8人	人	8人	8人

障がい

	10	11	12	1	2	3
	¥135,520	¥138,340	¥135,390	¥118,840	¥149,590	¥152,830
延べ人数	7人	7人	7人	6人	8人	8人
	27回	31回	47回	42回	回	60回

合計

延べ利用回数	10	11	12	1	2	3
介護	391回	389回	366回	356回	224回	368回
総合支援	114回	117回	115回	109回	103回	95回
障害支援	47回	48回	47回	42回	54回	58回
タクシー	114回	120回	123回	69回	109回	120回
自費	25回	24回	24回	22回	18回	25回

NO2

平成29年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護の売上	1984900	2190240	2098130	2327450	2208520	2242140	2147150	2348250	2102590	2068700	1923210	1895070
要介護数	45名	48名	45名	49名	51名	51名	50名	51名	49名	51名	47名	45名
要支援数	19名	18名	15名	14名	13名	13名	8名	8名	7名	5名	3名	2名
総合	0名	0名	3名	7名	7名	9名	12名	14名	16名	18名	19名	20名
原価売上	76920円	94370円	81320円	93070円	90360円	123740円	133080円	140010円	1157800円	141440円	129420円	1132450円
原価者数	7名	7名	7名	7名	7名	9名	9名	8名	9名	8名	8名	8名

総売上	2061220	2284610	2179470	2420520	2298850	2365880	2280230	2488260	2260390	2210140	2052630	2027520
職員 (常勤)	5名	5名	5名	5名	5名	5名	5名	5名	5名	5名	5名	5名
(登録・PA)	4名	3名	4名	5名	5名	5名	5名	5名	5名	4名	4名	4名

平成 31 年度（令和元年度）
事業活動報告書

社会福祉法人 敬人会
グループホーム きらら

令和 2 年 5 月 11 日

1、 基本方針

入居者の人格を尊重し、常に入居者の立場に立ち、家族の思いに寄り添い、個別の介護計画を作成する事により、その方にあった適切なサービスを提供する事に努めて参りました。また、社会福祉法人敬人会の基本理念、きららの基本理念を念頭に置き、サービスの質の向上に努めて参りました。

2、 目的

認知症のある高齢者が、家庭的な雰囲気の中で共同生活を行い一人一人にあった適切なケアを受けることにより、精神的に安定し健康で明るく、その人らしい生活がおくれるよう、入居者を支援することを目的とし、入居者及び家族に満足していただき、今まで以上に信頼関係をより良い関係にするよう努めて参りました。

3、 内容

(1) 認知症対応型共同生活介護計画の作成（ケアプラン）

入居者の心身の状況及び置かれた環境並びに過去の生活背景等をしっかり知った上でできることに着目したケアプランの作成に心がけ、ケアプランは定期的に評価を行い、定期的に担当者会議を開催し漫然かつ画一的なものとならないよう配慮するとともに、入居者又はその家族に対し親切丁寧を心がけ理解しやすいように必要な説明を行いました。

また、スタッフケア会議を月に1回行いスタッフ間で介護方法のずれがないように努めました。

報告・連絡・相談の強化

連絡ノートの活用・朝夕の申し送りの充実に努め、スタッフ全員で情報の共有を行い、アクシデント等があれば管理者・看護師に必ず連絡をしました。電話での相談も受け報告・連絡・相談の強化に努めました。

(2) 健康管理、医療連携

入居者の健康管理について、看護師を中心に日常の健康状態を把握し、状態変化などの早期発見、早期対応に努め、医療面に対する安心できる環境を提供しました。日頃の状態をスタッフ全員が把握し、少しの変化に気づく目を養い早期発見・早期対応に努めました。

看取りケアを28年度より始めました。31年度は看取りを行った利用者は2名でした。医師と連携を図ることで家族にも安心して頂くことで、ご家族様からの満足度は高く評価していただきました。

家族との連携

令和元年12月に行事と同日に家族会を開催し、現状報告・座談会を行い、家族からのたくさんの質問や意見を頂きました。また、遠方でなかなか面会に来られない家族には、日頃の様子を電話にて伝えたり、写真を多く載せているきらら新聞を送ったりときららの方から発信して参りました。また、面会時には日頃の様子を伝え、状態変化があった時には電話にて家族に伝え病院受診を検討し密に連携を図って参りました。

(3) ユニット間の連携、特定施設きららの連携

毎日2階の申し送り・毎月のフロアー会議と全体会議等を活用し、2階と3階の連携を密に図り、緊急時やレクリエーション時もスムーズに対応が出来る様、情報の共有を行いました。また、特定施設きららの入居者様とグループホームきららの入居者様の交流は顔なじみの関係ができ、日常生活の活性化と共に安心して生活できる環境作りにもなりました。

(4) レクリエーションの活発化

利用者達が望むレクリエーションを行うように努めました。屋上や近隣への散歩、光の森にある喫茶店へ行き、社会参加に努め、時代の流れを肌で感じてもらえるよう企画実践しました。又、季節感を感じてもらえる外出を増やすことで利用者、家族共に満足してもらえるよう努めました。屋内レクでは、その方の身体機能や認知機能に合わせ、活動内容を工夫しました。毎日のおやつ作りは、メニューから入居者の参画に努め、出来る家事活動を継続して行えるよう一緒に調理し、出来上がりの楽しめと共に美味しさを分かち合いました。

(5) 職員の資質向上

前年度に引き続き各種研修会に参加すると共に、研修報告書を提出することにより職員の知識の確認を行い、足りない部分は直接有資格者が指導することで質の向上に努めました。

(6) 運営推進会議

地域包括や地域の福祉施設、地域住民の代表の方に2ヶ月に1回集まっていたいただき会議を行い、さまざまな意見を頂きました。コロナ感染症の影響を受け、第6回目は行政の指導に従い、情報提供と照会という形式で地域からの意見を頂きました。今後も地域の方との繋がりを継続する為にも運営推進会議を積極的に開催しメンバーも増やしていきます。

(7) 事故（アクシデント）件数 : 51件 ヒヤリハット : 26件

事故が発生した場合、早急に対応策の話し合いを行い、再発防止に努めております。

31年度（令和元年度）も過去と同様で、アクシデントよりヒヤリハットの方が少ない現状です。

一般的に認識されている「ハインリッヒの法則」から考えると、この逆転現象を呈した件数結果は信頼性が低いと言えます。勿論、どのような事故か、どのような状態に多く見られるかは分析可能ですが、今後の対策に繋がっていないと反省しています。

発生は特定の方に限られており、歩行器使用で不安定ながらも自力で歩行出来る方やトランスをはじめ日常の生活動作に全介助に近い介護力を必要とされている状態像であるとわかります。

今後は、「事故防止強化月間」（仮）等を称し、取り組む事も必要かと思われまます。

又、逆転現象の要因として、「アクシデント」「インシデント」「ヒヤリハット」の定義が明確ではなく、それぞれの基準が統一できていない現実があるとわかりました。リスクマネジメントの観点から専門委員会等でのルール作り等、お願いしたいと考えます。

今後の課題として、①基準の作成と全スタッフ、引いては法人内全事業所の統一を図る。
 ②精度の高い根拠に基づき、RDCA サイクル等を有効活用し、再発防止に努める。
 以上、2点を今年度の課題として、一步前へレベルアップ・スキルアップしたいと考えます。

(8) 売上

平成 31 年度（令和元年度）は、月額売り上げ目標 680～650 万円。

平均売上は月額 633 万円で、目標に対し未達でした。

要因は待機者が 0 人で推移し、令和元年 11 月 27 日・令和元年 12 月 9 日にご逝去された後の補充が出来ていない点です。入院日数が年間で 6 日間。あり、稼働率も 96,7%と 100%を維持出来なかった。

入居決定後も入院中のまま体調が不安定となり入居日が延期となったり、中止になったりして空室の日数が多くなりました。入院日数の少ない要因として、訪問看護と各フロアの看護職との連携によりきららで医療行為をうける環境が出来ていた事。訪問リハビリの利用により、骨折後のリハビリを事業所内で実施できた事など医療との連携に努めた結果だと評価できます。

目標平均売上は目標額未達でしたが、年間稼働率は 96,7%でした。（前年度は 97%）

令和 2 年度は 4 月に 2 名入所、5 月に 1 名入所される事で満床となります。

入院の回避に努め、空室が発生しないように、日頃より異常の早期発見・事故防止に努め、売り上げ目標を達成できるように努めてまいります

4、 年間行事・活動内容

4 月	誕生会、花見、
5 月	誕生会、運営推進会議
6 月	誕生会、
7 月	誕生会、運営推進会議、七夕会
8 月	誕生会、編み物教室、夏祭り、家族会、
9 月	誕生会、編み物教室、運営推進会議
10 月	誕生会、編み物教室、ドライブ
11 月	誕生会、編み物教室、紅葉見学、運営推進会議
12 月	誕生会、クリスマス会、家族会
1 月	誕生会、初詣、運営推進会議
2 月	誕生会、節分会、外部評価
3 月	誕生会、運営推進会議（照会）、花見

5. 入居者状況

(1) 年齢別・性別の状況 (16名中)

令和30年3月31日現在

	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上
男性	0	2	1	0
女性	1	7	5	0

平均年齢・・・86,8歳

(2) 介護度

要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0	3	2	4	2	5

平均介護度・・・3,25

(3) 日常生活状況

区分	食事			座位保持			排泄			着脱衣			入浴			移動					
	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	自立	見守り	付き添い歩行	車椅子自操	車椅子介助	歩行器
実数(人)	9	2	5	9	3	4	8	1	7	4	4	8	4	4	8	2	3	4	1	4	2

令和元年度事業実績報告書

社会福祉法人 敬人会
小規模多機能居宅介護 きずな

報告者:河北 大輔

敬人会 法人理念

「人を敬い 人に学び 人と共に」

運営方針

「利用者様に学ばせていただく精神を常に丁度良い関係を保ち共に「幸せ」を目的とし感謝を心得・域社会への貢献を目指します」

事業所理念

私たちは何事にも前向きな姿勢で利用者の方を受け入れ一緒に歩んでいきます
「また行きたい」と笑顔で言ってもらえるようその人らしい一日を
利用者、家族、スタッフの話に耳を傾け安心安全で温かく明るい場所を作ります

基本方針

利用者様の尊厳と自立(律)を守りその人らしい生活を支援する
人と人とのきずなを大切にし、心に寄り添う介護を提供する
優しさ、思いやりを忘れずに温かい家庭的な介護を目指す

事業目標

- 1、職員の質の向上を目指し、よりよい介護を利用者様に提供する
- 2、地域ネットワークの強化、運営推進会議の活用
- 3、収益力向上による経営の安定

事業保目標達成への計画

1、専門職としての職員の育成、資質の向上

①内部研修（毎月第4水曜日職員会議にて実施）

- ・平成31年・令和元年度内部研修
- 4月(法令遵守・倫理について)
- 5月(離設について)
- 6月(記録について)
- 7月(ヒヤリハット・事故報告書について)
- 8月(身体拘束・虐待について)
- 9月(身体拘束・虐待について)
- 10月(権利擁護について)
- 11月(小規模多機能型居宅介護について)
- 12月(小規模多機能型居宅介護サービス評価について)
- 1月(虐待について)
- 2月(記録について)
- 3月(モラルハラスメントについて)

②法人内部研修への参加

- ・法人内部研修委員会のスケジュールに合わせて毎月の参加を促す
- ・その場に必要研修があった際は、予定と変更して今現場に必要な研修を開催し問題や悩みを解決できるように対応した。

③外部研修

- ・福祉の分野で働く意欲を持つ職員が、研修を受けやすいようシフトの調整を行う。
- ・より幅広い知識技術の習得できるよう研修の情報を職員に提供する。
(認知症実践者研修、リーダー研修、管理者研修、実務者研修等)

④資格の取得の促し

今後、介護主任、リーダーを担う人材に対して研修を進めていく、また、個人で受けたいなどの希望を募り、法人の了承とシフトの調整がうまく出来るようであれば、研修への参加を行う

⑤記録の強化

記録について理解している職員が少なかったことで、記録の重要性や記録の必要性を感じておらず記録の漏れが多かった。どのようなことを記録すべきなのかを伝えることで記録の充実を図った。また、二度手間な記録が多かったため、必要がない記録については中止し業務改善にも努めた。その結果、事業所内で電子記録になり、過去の記録を見直すことも容易になった。

2、地域との連携強化

①運営推進会議

奇数月に地域の方や小規模多機能型居宅介護きずなに知見がある方に声掛けし参加してもらい現状を報告する。

小規模の建物で実施したが地域の皆様に伝わりにくかったこともあり集まりが悪かった。前年通り本部で開催しグループホームと小規模多機能型居宅介護きずなで時間を分けて開催する。

②地域活動への積極的参加

- ・西原校区内の行事、どんど焼き 桜祭り、などの参加準備手伝いを行う。
- ・地域の方に顔を覚えてもらえるように小規模の会議等にも参加した。

③多職種連携会に介護支援専門員が参加し、医療機関、他事業所との連携の強化を図る。

* CMのみならず、管理者、一般職員の参加を促し、地域へ顔の売り込みも行っていく

4. 収益確保に向けて

①現在の利用状況 3/31:現在 登録 21名

ロングステイ 3名(最大8名) 週に数回ステイ利用 2名

きずな苑・・・10名 わらべ苑・・・2名 やすらぎの里・・・1名 外部・・・5名

要支援1・・・0名 要支援2・・・2名 要介護1・・・3名 要介護2・・・4名

要介護3・・・7名 要介護4・・・5名 要介護5・・・0名

R1年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	総数
4月	2名	2名	2名	2名	5名	5名	0名	18名
5月	2名	2名	2名	2名	5名	4名	0名	17名
6月	2名	2名	2名	2名	5名	4名	0名	17名
7月	0名	2名	3名	2名	6名	4名	0名	17名
8月	0名	1名	2名	2名	6名	4名	0名	15名
9月	0名	2名	3名	2名	5名	4名	1名	17名
10月	0名	2名	4名	2名	5名	4名	0名	17名
11月	1名	2名	5名	2名	7名	4名	0名	21名
12月	0名	2名	4名	2名	7名	5名	0名	20名
1月	0名	2名	4名	4名	6名	5名	0名	21名
2月	0名	2名	5名	4名	6名	5名	0名	22名
3月	0名	2名	3名	4名	7名	5名	0名	21名
総数	7名	23名	39名	30名	70名	53名	1名	223名

②利用者獲得

・居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院などへの営業を行っていく

・空き状況を各老健や病院、居宅介護支援事業所に定期的に発信する

鶴田病院地域連携室への営業実施、フォレスト熊本などの近隣の施設などへも営業実施

③利用者の健康管理など

- 1、 毎日のバイタル測定、状態観察などを行い、体調のすぐれない利用者様を早期発見、看護師との連携を行い、状態が悪化して入院に至る前に迅速に対応できるように努めている
- 2、 職員の質の向上にてヒヤリハットでの危険リスクの情報を共有し、転倒などの危険を未然に防ぎ、入院に繋がりにくい事故を予防する
- 3、 冬場の加湿・空気の入替え、食器や湯飲み・コップなどの定期的な消毒、清潔な空間、ソリューションウォーターを加湿器に入れ空気除菌を行うことで感染症を予防する

④収支報告

令和元年度は月間収入目標 570 万円、月間平均収入は 440 万円
人員基準の減算はなかったものの、登録者が月平均で上半期(4月～9月)は 16.8 人、平均介護
度 2.8 下半期(10月～3月)は 20.3 人、平均介護度 2.6 収入目標が達成できなかった原因とし
て、登録者が少なかったことが考えられる。また、加算体制も看護職員配置加算と認知症加、処遇
改善加算のみだった為、登録者が増えても 1 人あたりの介護報酬が低かった。

11 月より平均登録者が 20 名以上になり、2 月より総合マネジメント体制強化加算と訪問体制強
化加算を算定し登録者 1 人あたり 2 万円の増収につながった。3 月末時点で収入が 520 万円を超
えた。次年度は平均登録者 24 名、サービス提供体制加算の算定を目指すことで月間収入目標を
達成できるように事業所全体で動いていく。

平成 31 年度 事業報告書

社会福祉法人 敬人会

小規模多機能型居宅介護事業所

水前寺きらら

平成 31 年度 事業報告

<敬人会 理念>

「人を敬い 人に学び 人と共に」

<敬人会 運営方針>

「利用者に学ばせて頂く精神を持って、常に丁度良い関係を保ち、共に「幸せ」を目的とし感謝を心得地域社会への貢献を目指します」

<水前寺きらら 基本理念>

利用者の気持ちに向き合い、寄り添います。本人の意思を尊重し、その人らしい生活が出来るよう地域との連携を図りながら支援していきます。

<水前寺きらら 基本方針>

- 1、利用者の意思を尊重し、その方に応じた目標と支援計画を立て、全職員一丸となりサービスを提供します。
- 2、職員の資質向上を図り、利用者から信頼され、支持される職員の育成に努めます。
- 3、地域との連携を図り、在宅生活が継続できるように支援していきます。

<事業目標>

- 1、専門性の活かせる職場づくり
- 2、ご利用者本位のサービスの実践
- 3、地域ネットワークの確立
- 4、安定的収益の確保

<対策>

- 1、専門性の活かせる職場づくり

①内部研修

研修には積極的に参加し、個人が習得した知識、技術を全職員が共有できるように発表、勉強会の機会を設ける。

年間研修計画を作成し、職員会議で毎月発表する。

4月（介護技術について、認知症ケアとは）

5月（レクリエーションについて、個人情報保護、プライバシー保護）

6月（食中毒、熱中症と脱水について、緊急時の対応方法）

7月（介護職員の接遇マナーについて、事故発生予防および再発防止）

8月（利用者、家族とのコミュニケーションについて、成年後見制度・日常生活自立支援）

9月（認知症ケアについて、非常災害時対応）

10月（入浴介助について、緊急時の対応方法 ADL 講習）

11月（インフルエンザ・感染症対策、苦情相談、クレーム対応）

12月（介護技術について、リスクマネジメントについて）

1月（緊急時の対応方法、消防訓練）

2月（身体拘束について、感染症・食中毒について）

3月（介護保険制度について、福祉用具について）

■評価・・・平成31年度目標とした研修は100%実施できていた。

① 外部研修

より幅広い知識、技術を習得し、職員会議で随時発表する。

（認知症実践者研修、リーダー研修、管理者研修、実務者研修等）

③ 資格の取得

介護福祉士・・・平成31年度受験予定者2名（経験年数が満たない為）

介護支援専門員・・・今年度受験予定者1名

■評価・・・平成31年度0件

2. ご利用者本位のサービスの実践

① 喀痰吸引等研修体制の確保

痰の吸引等を行う登録事業者として適切な医療ケアが提供できるよう研修を定期的の実施する。

■評価・・・平成31年度実施できていない。

② ケアマネジメント体制の充実

・介護保険法の趣旨に従い、ご利用者のニーズに沿いつつ、ご利用者が尊厳を保持し、有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう、個別サービス計画を他職種協働で策定し、計画に沿ったサービスを提供する。

・各個別サービス計画が日々の生活のなかでどれだけ有効に展開されているか、評価・モニタリングを適切に行い実施し、個別ケアの充実を図る。

■評価・・・他職種協働にて作成されている。

3. 地域ネットワークの確立

① 運営推進会議

・2ヶ月に1回開催し、家族・包括・地域住民との交流、情報交換を行う

■評価・・・6回/年の目標回数で、5回実施（1回未実施理由はコロナ影響）

② 居宅、包括連絡協議会

・3ヶ月に一度の定期会への参加

■評価・・・4回/年参加できた。

③ 地域活動への参加

・水前寺きららを地域の皆様に知っていただくように、地域の行事、出水校区の行事に積極定期に参加する

■評価・・・1回参加あり。

4、安定的収益の確保

水前寺きらら 31 年度

最大登録者数 29 名 1 日の通所最大利用者数 18 名

売上目標・・・年間 6480 万円（月 540 万円）

登録目標・・・276 名（月 23 名）

■評価・・・実績 227 名（18.9 名）

* 現在、最大登録者数は 29 名だが、毎日の通所利用者が 12 名と占める割合が多く、新規で毎日通所利用者を受け入れて最大登録 29 名達成は難しいのが現状。

①新規利用者の獲得

・現在、胃ろう（PEG）の利用者 1 名受け入れる。今後も医療依存度の高い利用者を獲得していく。

■評価・・・新規受け入れ 4 名/年。PEG の方も受け入れ継続利用中。

②入院患者を減らす

・病院の定期受診に職員（看護師）が必要に応じて訪問サービスとして付き添いを行い医師との連携を強化する。

■評価・・・入院者数 2 名

看護師の訪問は実施できていた。その上で医師との連携もあった。

③業務の効率化

・職員人員配置

管理者兼計画作成担当者 1 名

常勤看護職員 2 名

常勤介護職員 9 名

非常勤介護職員 2 名 計 14 名（3 月 15 日現在）

■評価・・・常勤看護職員 1 名、非常勤看護職員 1 名

常勤介護職員 9 名、非常勤介護職員 1 名 計 12 名（令和 2 年 4 月 1 日現在）

④コスト削減

・毎月の職員会議で売上、支出の報告を行い、消耗品、購入物品などの使いすぎ、買いすぎなどを意識してもらう。

・クールビズ制服の着用を 31 年度も行い、全職員で節電意識を高める。

■評価・・・指標として水前寺きららの支出・電気使用量等を確認。

物品購入については熟考した上で購入か否か判断していたとのこと。

⑤障害者の雇用

・障害者を 2 名雇用（現在 1 名、4 月より 1 名）し、今後も社会貢献を念頭に障害者支援セン

ターとの連携を密にしていく。

■評価・・・継続雇用中。意欲を持って真面目に働いている。

令和元年度事業報告書

2020年5月10日

社会福祉法人 敬人会

幼保連携型認定こども園 わらべ

令和元年度事業報告

(1) 運営理念

社会福祉法人敬人会の基本理念『人を敬い 人に学び 人と共に』

近年、少子化、都市化、核家族化など社会状況が進行する中、家庭内・地域・異世代・異年齢との交流がますます減少し孤立した中では、子どもの社会性や自主性が育ち難い環境におかれている子ども達。子どもの育ちにとっては、家庭内ばかりではなく、子ども同士や他の家族、異世代の人々との交流を大切に保育を実施した。

(2) 保育方針

理念・法人名変更に伴い保育方針も見直し変更し、下記の方針で保育を実践した。

「人を敬い」友達を大切に 友達に親切に 困っている友達を助ける

「人に学び」友達の良いところを学ぶ 友達の良さに気づく お互いに学びう

「人と共に」友達と協力しあう 友達と一緒に活動する 友達と切磋琢磨する
友達と一緒に楽しむ

めざす子ども像

「げんきでね」 よく食べ・よく遊び・よく眠る子ども

「なかよくね」 けんかしても、仲直り出来る子ども

「がんばってね」 最後まであきらめずがんばる子ども

「やさしくね」 人と動植物の関わりを通してやさしい子ども

「かんがえてね」 一度立ち止まって考える子ども

(3) 保育の実践

子ども達が意欲的に主体的に遊びや活動に取り組めるように、個々の発達段階に応じた保育・教育を展開し保育環境を整えていくことに努めた。また日常保育の充実を図り、様々な遊びを通して生活に必要な様々な生きる力を身につける保育に努め、乳幼児期の「遊び」は、大切な「学習」ということを保護者にもお便りや園長講話や各クラスボード等で常に伝えてきた。

① 養護と教育の充実・向上

認定こども園教育要領に基づき、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言語」、「表現」の5領域の視点から「保育計画」を策定し、さらに「年間保育計画」に基づき月案、週案、日案をたて実施した。また、保育と教育を総合的に遊びを通して実施した。

② クラス編成

0歳児前期乳児、後期乳児、1～5歳児の各年齢にクラスを分け、発達段階に応じたきめ細やかな保育指導計画に基づいた保育活動を実施した。

③ 運動遊びについて

日頃の保育活動の中で身体の柔軟性、敏捷性、平衡感覚等を養うため色々な運動遊びを取り入れている。走る、飛ぶ、投げる等の基本的な体づくりや鉄棒・マット・平均台などを使った技能も積極的に行い、子ども達の運動能力を高めることに努めた。その成果を運動会や生活発表会で披露することができ、子どもたちへの自信へと繋がった。

④ 異年齢・異世代交流

当園は、隣接する施設の高齢者と身近に交流が出来る環境を活用し、発表の場としての歌やダンスの披露だけではなく個々の触れ合い遊び等を多く取り入れてより交流を深めることができた。本年度は、交流の回数が少なく終わってしまった。老人福祉部門の人手不足もあり、法人間の連携が取れなかった。今後は、一層交流を深めるためには、法人施設間の職員の連携（法人本部会議等）が大切である。

⑤ 生活習慣の定着化

基本的生活習慣の徹底と社会的な生活習慣の定着化に努め、ひとりひとりの発達段階に応じたきめ細やかな保育に努め、家庭にも生活習慣の大切さを日々のクラスごとの掲示物等でも示した。

⑥ 食育活動

全クラス食育計画に基づいて活動を実施した。園庭のプランターやケアハウスわらべ苑の裏（ふれあい農園）・法人本部（きらら）4階の屋上にて芋の苗植えや夏野菜植えを行い収穫を行った。子ども達がもっと興味関心を持てるような保育を行っていくことが大切だが、その前に保育教諭も植物に、もっと関心を持つ意識を持たないと子どもたちへの意識の変化には繋がられない。植物を育てる大切さや収穫の喜びなど自然の営みを保育活動にもっと展開できるよう努めたい。

⑦ 交流事業

- ・地域交流（散歩・校区の子育てサークルへ参加・子育て支援会議参加）
- ・異年齢交流（未満児・以上児交流保育・誕生会・クッキング、お世話係）
- ・異世代交流（法人内施設の定期的交流、誕生会、季節後との行事）
- ・小学校との連携（校区小への訪問、1年生との交流の集い）
- ・家庭保護者支援（子育て支援カフェ「ポピー」月2回開催・相談事業）

(4) 保育事業の内容

①定員 175名

1号認定—15名 2号認定—90名 3号認定—70名

** 入園園児数に関しては別紙①参照

② 開園時間—月曜日～金曜日まで 午前7時～午後7時30分まで
土曜日 午前7時～午後7時まで

③各クラスの担任は、常に最低基準以上を満たす保育教諭及び看護師を配置。

④ 春夏秋冬の各季節の園外保育を行っています。別紙 年間行事予定表

・ 年長児…夏の公共乗り物体験（博物館）秋の遠足（動植物園）・

お別れ遠足（立田山裏山公園）

冬の遠足1回（立田山裏山公園）

・ 年中児…秋の遠足（動植物園）・お別れ遠足（立田山裏山公園）

・ 年少児…秋の遠足（運植物園）・お別れ遠足（立田山裏山公園）

・ 2歳児…お別れ遠足（保田窪公園）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、お別れ遠足は、バスを使わず園から徒歩で行けるところに変更。

⑤ 保育発表及び公開は、保育参観（年2回）、運動会、発表会を実施。

保護者へは、日常的に自由に保育を参観していただけるよう伝えている。また保育参観だけではなく、保育参加も呼びかけ、一緒に保育に参加していただき保育方針や保育内容の理解に努める。（夏祭り、もちつき等 保護者の方にボランティアとして参加）

年間行事は計画表に沿って予定通り各月実施。

⑥ 特別保育事業の設定（4項目）

・ 預かり保育事業（1号認定対象）14：00以降の預かりを実施。

・ 延長保育事業（2・3号認定対象）

* 月～金：午後6時から午後7時30分まで（おやつ・軽食）

* 土曜日のみ：午後6時から午後7時まで（おやつのみ）

今後、午後7時以降の利用は、少ないので延長保育時間の短縮も考える。熊本市の延長保育事業補助金も減額方向なので、人件費等考量すると短縮する方向で検討する必要がある。

・ 一時預かり保育（自主事業）

利用時間—午前9時半から午後5時まで

利用日数—月13日以内

（土日・祝日・園内の行事がある時は行わない。）

市の延長保育事業補助金も減額方向なので、人件費等考量すると短縮する方向で検討する必要がある。

・ 一時預かり保育（自主事業）

利用時間—午前9時半から午後5時まで

利用日数—月13日以内

（土日・祝日・園内の行事がある時は行わない。）

利用料金—半日1000円（昼食なし）

1日預り2000円（昼食ありで1日預りとす）

本年度は、利用希望が2歳児が多く、1日2名受け入れる日も多かった。

当園では、在園児と同じクラスで受け入れるので利用人数や職員配置によって難しいことが多い。しかし、地域のニーズや今後の園児募集に繋げるためにも、この事業は必要である。

・ 障がい児保育・・・補助金の申請 1号認定-1名 2・3号認定-12名

療育手帳・意見書の提出によって、職員加配の為の補助金申請を行う。

軽度—1人につき月4万円程度 人件費に当てる

課題を持つ子どもにどのような支援が必要かを職員会議・検討会にて全職員への報告を行い共有できる体制をとっている。また、保護者へ子どもの様子を伝えて、子どもの困り感が解決できるように支援へつなげていける面談や相談、機関の紹介を積極的に行っている。その結果、今年度は補助金申請者が増えた。その分職員の加配をつけることができるので、子ども達にきめ細やかな関わりができる。これは、保護者の理解がないとできないので、子ども達のためにも今後も丁寧な説明と園の保育内容の理解を求めていく必要がある。

障がい児研修にも積極的に参加し、園内研修でも勉強を進めている。「発達支援」「保護者支援」等、より一層の対応が出来る体制を整えていくよう努める。

(5) 保育への取組体制

① 職務分担表により職務を分担し、年間行事や日々の保育を実施。

② 嘱託医：内科「武藤大久保眼科内科」 大久保 康生 医師

：歯科「渡辺歯科医院」 渡邊 康 医師

：薬剤師 佐藤 拓真

③保健衛生

・職員は、園児への感染を未然に防ぐため毎月検体提出を実施し、(株)保健科学研究所（検体・検尿・ぎょう虫検査委託）で、赤痢・サルモネラ・0157の検査を実施。給食職員は、加えて10～3月はノロウィルス検査追加。

- ・職員定期健康診断-年1回実施（岡崎クリニック・日赤等）または、入職時診断書の提出を義務付け職員の健康管理実施。

令和元年度の保健目標：

- ・戸外で遊びの充実（戸外遊びの環境を整える）
- ・家庭と連携し規則正しい生活をする（早寝・早起き・朝ごはん）
- ・手洗い・うがい・歯磨き等の衛生週間を身につける。
- ・健康安全な生活が送れるように月1回の保健だよりを家庭に配布する。

健康診断等の実施により、疾病の予防や下記の4つの検診等で発達状態の把握に努めた。

- ・身体測定：毎月実施 頭囲・胸囲測定（0歳児年3回、4・10・3月）
- ・歯科検診：年1回（全園児対象6月）
- ・内科検診：年2回（全園児対象6・11月）

以上、健康診断記録に記入し個人記録ファイルで保管。

*個々の健康管理に関しては、登園時において、園児の健康状態を視診するとともに、連絡ノートでの確認及び保護者から様子を聞き取り、保育活動中に園児に異常が見られた場合は、直ちに管理者へ報告するとともに保護者に迎えを依頼し、園児の状況により医務室での休息等を行い保護者のお迎えを待った。また、管理者・担任及び看護師立ち会いのもと保護者に説明を行い、医療機関での診察を促すこともあり。

*怪我の場合は、管理者、担任及び看護師で医療機関へ連れて行くなど、速やかな行動と処置実施。

(6) 給食

令和元年度給食の目標：自分たちで野菜を植え育てることにより野菜に関心を持ち、好き嫌いをなくす。又野菜を作る人たちに感謝の気持ちをもつようになる。

- ① 自分たちで野菜を育てることの大変さ楽しさを学び、食べ物を大切にすることが育てる。
- ② 食事づくりの手伝いをし（年長児）作ってくれる人への感謝の気持ちと食事前の挨拶をきちんとし、食べることへの感謝をする（全園児）
- ③ 月一回誕生会のおたのしみメニューでは、バイキング形式とし食事のマナーを身につける。（3歳以上児）
- ④ 食物アレルギーを持っている園児や食事制限の園児については、保護者と密

に連絡をとり、除去食を行い制限内の食事の提供を実施。除去食は、食器を変え、名前も記入し間違いがないよう提供。また、給食室での確認、クラスでの確認、食べる前の確認を声かけ確認を実施。

- ⑤ 食物アレルギー緊急対応マニュアルの作成
- ⑥ 食育計画に基づく保育活動の実施

熊本市へ提出する栄養状況報告の結果では、当園は平均値より高く子ども達の発育もよいとの評価を受ける。

(7) 環境の整備

- ① 園舎2階テラス部分の防水工事を実施。以前よりも少しだけ、クッション性のある物を塗布。13年目を迎えて、園舎の劣化等がいろいろな箇所に出ることが予想されるので、安全点検に努める。
- ② 1階0歳児室（ほしぐみ）エアコンが故障し、買い替え。前年度より故障が続いたため。
- ③ 外用の冷蔵庫が故障のため買い替え。給食食材を入れるために必要。
- ④ 環境美化を意識し常に美しく整った園であるよう心がける。
年1回ワックスがけ実施
- ⑤ 保安点検では安全点検表に沿って安全点検等の実施及び防災年間計画に沿って避難訓練等を実施。消防署の方の立ち合いの避難訓練も行い災害に対する命を守る大切さも子どもたちに伝えている。又、増築後の避難経路変更や避難袋設置場所・非難袋使用方法の確認も行っている。
- ⑥ 防犯安全対策
 - ・防犯カメラ4台設置
(玄関・西門辺り・給食搬入出入り口・2階通用口)
 - ・在園中の園児の面会は、危険回避のため必ず職員室を通す。
 - ・お迎えについては、事前提出のお迎え証明書リストで確認を徹底。
 - ・監視カメラ8台の設置
園庭・第二園庭(2階)プール側・各保育室(6クラス)
防犯上や保育の安全確保、また事故等が発生した場合の事実検証等に活用するために設置。
 - ・園舎前の道路への飛び出し防止策として、視覚からの理解(看板設置・とまれや足跡マークを設置)
- ⑦ 園庭の整備
 - ・年3回ほど、砂場の砂の補充・樹木消毒

(8) 職員研修について

①国内研修

- ・熊本市、熊本市保育連盟、日本保育協会等が行う研修会
- ・宮崎県 あがた幼稚園（幼保連携型認定こども園）への視察研修
- ・キャリアアップ研修（処遇改善手当Ⅱ対象）

②海外研修

幼児教育の最先端である北欧スウェーデンへの視察研修 3名参加
報告書-別紙参照

現場の職員が行くことにより、多くのことを体験・経験し実践へとつなげることができた。

参加した職員は、復命書を作成し回覧、園内研修にて内容の共有化を実施。
保護者には、保育参観等で説明・資料閲覧掲示。

③園内研修

令和元年度 園内研修目標

1. 子どもの成長、発達を促すために、一人一人の実態を的確に把握する。
2. 子どもの実態に応じた関わり方、環境構成を工夫する。

- ・子どもの関わり方・環境構成等研修（幼児教育アドバイザー池田 洋子）
- ・アナフィラキシー症状対応、エピペンの使い方研修を実施（看護師指導）
- ・救急救命、AEDの使い方（消防署指導）
- ・熱中症について（看護師指導）
- ・嘔吐物処理研修（看護師指導）
- ・スウェーデンの幼児教育視察研修報告
- ・不審者対応研修（用務員 三池） 元刑務官
- ・資産運用について（外部講師 肥後銀行 渡鹿支店より）
- ・発達に課題のある子への理解（保育教諭 谷 香奈）
- ・薬の取り扱いについて（薬剤師指導）

教育・保育要毎回午後の昼寝の時間を利用し、2日に分けて全職員が研修を受けられるよう配慮した。また、わかりやすいようプロジェクターでの表示、解説を行い職員の理解度を深めた。

(9) 地域活動等について

子育て支援カフェ「ポピー」 月2回開催 10:00～11:30

場所一子育て支援室（1階）

主に地域の方や在園児の育休中の方が主に参加し、園内の行事等も一緒に参加。予定表掲示、地域へのパンフレット配布、保護者へお便り等を通して伝え、毎月少しずつ参加者が増加し、浸透していった。次年度への園児募集にも繋がり、園のアピールや地域への認知度に貢献できた。

地域の方との付き合いや交流を夏祭りや運動会等を通して行った。

各クラス、園外へ散歩に行くときは地域の方と子どもたちから元気に挨拶を行う姿も見られ地域交流も深まり、近隣施設（セントケア）の秋祭りに参加。

(10) 個人情報保護について

当園の園児及び入園手続きや見学等により知り得た個人情報については、「県個人情報保護条例」に基づき適正に管理すると同時に個々の職員の意識についても会議の場で個人情報について伝えている。また個人情報や掲示する写真等については個人情報の取り扱いについてのプリントを配布し、文章をもって承諾をしてもらった。園のホームページ・Facebookに載せる写真も、考慮して掲載している。

(11) 苦情解決について

保護者及び近隣の方からの要望や苦情等については、苦情解決規程に基き、ご意見箱・苦情箱設置。苦情相談窓口を玄関横の職員室内（相談室）を設置。

3件の意見

1. 内容：意見箱へ匿名の保護者からの手紙（平成31年4月1日受付）

30年度（前年度）3歳児クラス（くもぐみ）への意見

ご意見についての回答を掲示（4月2日）

- ・保護者への伝え方など、適切なコミュニケーションを図るよう意志統一を行った。
- ・職員同士の会話については、保育中は保育に専念し。伝達事項等必要最低限を行うことを徹底し、保護者の方へ誤解がないよう努めていく。

2. 内容：母親より電話で受付（令和元年10月3日受付）

連絡帳の返事がない。子どもの様子が分からない。伝えてもらえない。

職員の私語が多い（プライベートな内容）。面談内容が準備不足。

ご意見についての回答（10月4日職員室にて副園長、主幹対応）

- ・保護者の方の思いや・考えを詳しく聞き取りを行った。このような貴重なご意見をいただいたことへの感謝と謝罪を行った。母親の気持ちを受け止

めてクラスの対応の仕方、連絡ノートの書き方等指導していくことを伝え
た。

保護者とのコミュニケーション不足から上記のような不安、意見が生まれ
た。園での様子やその子の成長を共有し、一緒に喜び合える関係づくりを
目指していく必要がある。

3. 内容：意見箱へ匿名の保護者からの手紙 （令和元年11月11日受付）

生活発表会の観覧の仕方、観覧日に関してのご意見

ご意見についての回答を掲示 （11月13日）

今までも発表会当日、祖父母が来てはいけないということはなく、できれば
「お披露目会にどうぞ」と伝えていたが、伝え方、受け取り方の違いでこの
ようなご意見が出たと考えられる。保護者への伝え方など、適切コミュニケ
ーションを図るよう意志統一を行った。

職員会議・朝礼（朝礼研修資料）等で職員に報告、園の方針を再確認し、意思統一
を図った。

上記、3点の意見がありました。

苦情はなし。

令和元（2019）年度事業報告書

社会福祉法人 敬人会
わらべっ子保育園

2019 (R1) 年度事業報告

(1) 運営理念

社会福祉法人敬人会の基本理念は『人を敬い 人に学び 人と共に』です。近年、少子化、都市化、核家族化など社会状況が進行する中、家庭内・地域・異世代・異年齢との交流がますます減少し孤立し、子どもの社会性や自主性が育ち難い環境におかれています。子どもたちの心身ともに健やかな成長に向け、家庭内ばかりではなく、子ども同士や他の家族、地域の人々との交流を大切に保育を行いました。

(2) 保育方針

「人を敬い」 友達を大切に 友達に親切に 困っている友達を助ける

「人に学び」 友達の良いところを学ぶ 友達の良さに気づく

「人と共に」 友達と協力しあう 友達と一緒に活動する 友達と一緒に楽しむ

上記の保育方針を元に、保育士は子どもの思いを大切に、子どもの良い所を認め、保育士や子どもたちと一緒に遊ぶ事の楽しさを伝えていきました。

又、「イヤイヤ期」の子どもの思いや甘えをしっかりと受け止めながら、ゆっくりと慌てずに、愛着形成を大切に保育に取り組みました。

(3) 保育の実践

子ども達が意欲的に主体的に遊びや活動に取り組めるように、個々の発達段階に応じた保育を展開し保育環境を整えていくことに努めました。また日常保育の充実を図り、様々な遊びを通して生活に必要な様々な生きる力を身につける保育に努め、乳幼児期の「遊び」は、大切な「学習」ということを保護者にもお便り等で伝えていきました。

① 養護と教育の充実・向上

新保育所保育指針に基づき、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言語」、「表現」の5領域の視点から「全体的な計画」を策定し、さらに「年間・保育計画」に基づき月案、週案、日案をたて実施しました。また、保育と教育を総合的に遊びを通して行いました。

② クラス編成

0歳児～2歳児の各年齢、一人ひとりの発達段階に応じたきめ細やかな保育指導計画に基づいた保育活動を実施しました。

③ 環境整備について

洗濯機や乾燥機、空気清浄機、加湿器などを購入し衛生面の環境を整えました。

④ 運動遊びについて

身体の柔軟性、敏捷性、平衡感覚等を養うため色々な運動遊びを取り入れ、（鉄棒・マット・平均台なども利用）CDで音楽を流しながら自由に体を動かす事を楽しみました。連携施設より「太鼓橋」をお借りし、室内でも体を動かす活動の充実を行いました。又、近隣の公園や連携施設の園庭を利用し、体を十分に動かして遊びました。

⑤ 異年齢・地域間交流

当保育園は、各年齢の保育室が区切られておらず、0～2歳児が一緒に生活する中で「お兄さんお姉さんの真似をしたい」という意欲的な姿や、小さいお友だちに対して玩具を取ってあげたりと、いたわる姿も自然とみられるようになりました。又、近所の方の畑に果物収穫に行ったり、散歩の途中、地域の方に子どもたちから自然とご挨拶したり、地域間交流を深めました。

⑥ 生活習慣の定着化

基本的な生活習慣の自立に向けひとりひとりの発達段階に応じたきめ細やかな保育に努めました。手洗いを保育士も一緒に行い丁寧な手洗いが習慣づくよう声掛けを行いました。

⑦ 食育活動

園庭のプランターに夏野菜や冬野菜を植え収穫を行いました。収穫した野菜は給食の先生に調理して頂き、子どもたちと一緒に食べることで苦手な野菜に少しでも興味が持てるようにしました。

給食時間は保育士も子どもたちと一緒に食事をしながら、食材の名前を一緒に考えたり、「おいしいね」「あまいね」「すっぱいね」など様々な声掛けを通して語彙力を高め、食事が楽しい時間となるよう心がけました。

⑧ 絵本の充実

子どもたちが好きな時に自ら絵本に触れることが出来る環境を作り、絵本に興味を持てるようにしました。季節や子どもたちの興味に合わせて絵本の入れ替えを行ったり、月のお便りに「月間絵本」について子どもたちの反応を載せたり、又、子どもたちが興味を持った本を玄関に掲示したりと保護者の方にも絵本の楽しさや大切さが伝わるよう努めました。

⑨ 連携施設交流

3歳児クラスへ上がる時は、連携園の「わらべこども園」に優先的に入園できるように配慮して頂いています。保育活動や様々な行事を一緒に行い、連携施設交流を多く取り入れました。

又、2歳児クラスは出来るだけ週に1回定期的にわらべこども園の2歳児クラスとの交流を行うよう、各園の担当保育士同士計画を立てていましたが、3学期はコロナウィルス感染防止などのため交流を控えることとなりました。

(4) 保育事業の内容

①定員…19名(0歳児…6名、1歳児…6名、2歳児…7名)

2019(R1)年度園児数

4月	0歳児…0名	1歳児…6名	2歳児…7名	計13名
5月	0歳児…1名	1歳児…7名	2歳児…7名	計15名
6～9月	0歳児…5名	2歳児…7名	2歳児…7名	計19名
10月	0歳児…5名	1歳児…6名	2歳児…7名	計18名
11～3月	0歳児…5名	1歳児…7名	2歳児…7名	計19名

②開園時間-月曜日から土曜日まで午前7時30分から午後6時30分まで

③常に最低基準を満たす保育士及び看護師を配置しました。

④春夏秋冬の各季節に合った、行事や園外保育を行いました。

別紙 年間行事予定表

⑤保育発表及び公開は、遠足や保育参観、運動会、おたのしみ会にて行って
いました。

⑥1歳児クラスの待機児童が多く、区役所からも1歳児の受入を多くしてほし
て欲しいとの要望もあり0歳児6名定員を5名へ、1歳児6名定員を7名に
増やし、待機児童削減に努めました。

(5) 保育への取組体制

①職務分担表により職務を分担し、年間行事や日々の保育を行いました。

②嘱託医 : 内科「武藤大久保眼科内科」 大久保 医師
: 歯科「渡邊歯科医院」 渡邊 医師

・職員は、園児への感染を未然に防ぐため毎月検体提出を実施。

「熊本県予防医学協会」で、赤痢・サルモネラ・O-157・腸チフス・パラチフ
スの検査を実施。

・職員定期健康診断-年1回実施(岡崎クリニック・日赤等)または、入職時診
断書の提出を義務付け職員の健康管理実施。

③保健衛生

2019(R.1)年度の保健目標: 保育室を清潔に保ち、感染を防ぐ

健康診断等の実施により、疾病の予防や下記の3つの検診等で発達状態の把
握に努めました。

- ・身体測定: 毎月実施 頭囲・胸囲測定(0歳児年3回、4・10・3月)
- ・歯科検診: 年1回(全園児対象7月)
- ・内科検診: 年2回(全園児対象6・10月)

以上、健康診断記録に記入し個人記録ファイルで保管しています。

*個々の健康管理に関しては、登園時において、園児の健康状態を視診するとともに、連絡ノートでの確認及び保護者から様子を聞き取るようにしました。保育活動中に園児に異常が見られた場合は、直ちに保育責任者へ報告を行い保護者に迎えを依頼し、保護者のお迎えを待ちました。また、保育責任者・看護師立ち会いのもと保護者に説明を行い、医療機関での診察を促すこともありました。

*園内での怪我等の場合は、保育責任者、及び看護師で医療機関へ連れて行くなど、速やかな行動と処置を行いました。

*今年度2月3月は、室内の換気、清掃等もより一層丁寧に行い、又出勤前の職員の検温を行い健康管理を行う事で「コロナウィルス感染拡大防止」に努めました。

(6) 給食

2019 (R1) 年度食育目標 「たのしくたべましょう」

- ① 給食が「楽しい時間」となるよう声掛け等を工夫しました。
- ② 苦手な食べ物は無理をせず、少しでも食べた時は保育士も子どもたちと一緒に喜び、満足感が得られるようにしました。
- ③ 食物アレルギーを持っている園児や食事制限の園児については、保護者と密に連絡をとり、除去食を行い制限内の食事の提供を行っています。除去食は、食器を変え、名前も記入し間違いがないよう提供しました。また、給食配膳時の確認、クラスでの確認、食べる前の確認を声かけ確認を行っています。
- ④ 食育計画に基づく保育活動の実施
- ⑤ 連携施設より給食を搬入し、子どもの成長に合った食事の提供をおこないました。

(7) 環境の整備

- ① 園児の豊かな感性や心を育てるため、絵本や玩具等の充実をはかりました。玩具等の新規購入と保育用品（整理棚・玩具用棚）の購入も子どもたちの発達に応じ取り揃え環境を整え、コーナー遊びの充実を図りました。玩具の場所がわかりやすいように、収納箱に写真を張ったり工夫を行ったことで、子どもたちが自ら興味のある玩具に触れ、片付けも子どもたちが行うようになりました。又、壁や天井に季節の花や子どもたちの作品を飾ったり、保育室内に様々な植物を取り入れることで季節や風、香りなどの自然を感じる事が出来るようにしました。
- ② 年末に、業者によるエアコンの清掃と床のワックス掛けを行いました。保育室内は毎日消毒液にて清掃、又、玩具の拭き上げも頻繁に行い、環境美化を

意識し常に美しく整った園である事と、病気感染等を防ぐよう心掛けました。

- ③ 保安点検では安全点検表に沿って毎月安全点検を実施、防災年間計画に沿って避難訓練等の実施に努めました。月初めには散歩コースや公園などの確認を行い戸外活動時の事故防止を心がけました。又、毎月職員と避難経路や子どもたち避難誘導の仕方などを繰り返し話し合い職員全員が避難経路避難の仕方を共通認識できるよう努めました。

又、散歩コースの見直しを保育幼稚園課や警察の方と一緒にを行い、子どもたちが使用する横断歩道の信号の時間を長く設定変更、信号待ち場所の防御棒の設置をしてもらいました。

- ④ 保育室入口はオートロック式の鍵になっており、外からの不審者侵入対策を行っています。

- ・在園中の園児の面会は、危険回避のため必ず園長・主任を通して行います。
- ・保護者以外のお迎えについては、事前提出のお迎え証明書リストで確認を徹底するようにしています。

- ⑤ 寄付して頂いたひな人形（わらべ保育園より）や節句飾り（わらべ職員より）を玄関に飾り、時期に合った飾りつけを行い季節感を感じられるようにしました。

- ⑥ 園庭の整備

- ・気温に合わせ、園庭に日除けを張り園児の熱中症対策を行いました。
- ・園庭がすべて砂場なので、消毒等も定期的に行うようにしました。

- ⑦ 保育室の整備

子どもトイレのネジが外れたり、ドアのゆがみ等に関しては、その都度、業者に依頼し整備を行いました。

(8) 職員研修について

- ① 熊本市、熊本市保育連盟、日本保育協会等が行う研修会に積極的に参加し保育技術の向上を図りました。参加した職員は、復命書を作成し回覧、職員会議で報告を行い園内研修にて内容の共有化を目指しました。

又、福祉先進国のスウェーデンの保育園や幼稚園へ現地視察研修へ行き、自然を取り入れた「子どもが真ん中」の教育・保育を学びました。

- ② 園内研修

2019 (R1) 年度 連携施設での園内研修と一緒に参加しました。

子ども一人ひとりの成長発達に応じたきめ細やかな保育環境の充実

- ・池田洋子先生による園内研修を実施。年4回

毎回午後の昼寝の時間を利用し、2日に分けて出来るだけ多くの職員が研修を受けることができるよう配慮しました。また、わかりやすいよう

プロジェクターでの表示、解説を行い職員の理解度が深まる研修となりました。

(9) 個人情報保護について

当園の園児及び入園手続きや見学等により知り得た個人情報については、「県個人情報保護条例」に基づき適正に管理すると同時に個々の職員の意識についても会議の場で個人情報について話をおこないました。また掲示する写真等については写真掲載に関する承諾書を保護者の方に提出していただき了解をいただいています。

(10) 苦情解決について

保護者及び近隣の方からの要望や苦情等については、全職員で誠心誠意対処し、信頼を得られるように「ご意見・苦情受付箱」を玄関に設けました。

今年度は「ご意見・苦情」等はありませんでした。

*園内で起きた怪我や事故、又、保護者からのご意見等については、その都度職員と話し合い、全職員が子どもが楽しく安全に園生活を送ることが出来るよう共通理解を行いました。

令和 元年度 事業報告書

社会福祉法人 敬人会

介護付有料老人ホーム きずな

報告者 施設長 上田 敏昭

介護付有料老人ホーム きずな 令和 元年度 事業報告

1、総論

令和元年度は元号も変わり新しい時代を迎えました。また、昨年は医療・介護報酬の同時改定もあり、介護法報酬改定の概要としては団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、国民1人1人が状態に応じた適切なサービスが受けられるよう質が高く効率的な介護の提供体制の整備が行われ、各種加算が新設された。(介護報酬率：+0.54%) プラスの加算だけではなく、身体的拘束等の適正化を図る観点から、身体拘束廃止未実施減算等の加算も新設され、減算がない様に事業所全体で日々取り組んできました。また、TVや新聞で施設での虐待が数多く報道され、法人全体で研修会等を積極的に開催し、虐待防止に努めた年でもありました。10月には消費税増税やそれに伴う介護報酬の一部改定等がある中、事業所としての適切な運営を継続すると共に、今後も利用者中心のケアを充実させ、満足して頂ける施設作りに取り組んでいきたい。

2、サービス提供状況

①チームケアの充実

・受け持ち制を導入し、居室の掃除や入居者様の個別ケアの充実を目指し行ってきたが、まだ十分に機能していなかった。今後も受け持ち制を継続し、入居者様のアセスメントや担当者会議の参加等を積極的に行い、個別性のある継続したケアを行っていく。

②個別機能訓練の充実

・8月より理学療法士が入職し、機能訓練指導員と協働しながら、入居者様の自立支援・ADL低下の防止を図る事が出来たと思われる。継続して機能訓練の充実を図っていく。

③医療ケアの充実

・医療依存度が高い入居者様(胃薬・インスリン・バルン留置等)に対しては、主治医や協力医療機関との連携をとりながら適切な対応は行われた。

④看取り介護の対応

・令和元年度は5名の入居者を施設で看取ることが出来た。
訪問看護を導入し、主治医、看・介護職員と連携をとりながらスムーズに看取りケアを行う事が出来た。現在、加算(夜間看護体制加算・看取り加算)等は取れないが、入居者様や家族の意向に沿いながら適切な看取りケアを実施していきたい。

⑤専門職としてのスキルアップ

・施設内研修は毎月テーマを決め、グループのリーダーを中心に行ってきた。月2回実施することにより全員参加を目指し98%の出席率であった。社外研修については、毎月行われる特定協の連絡協議会には参加できたが、他の研修に於いては、人員不足もあり十分に参加実施することが出来なかった。今後はもう少し社外研修のあり方も検討し、職員に研修の情報提供を行い自己研鑽の意識を高めていきたい。

⑥事故防止の徹底

・ヒヤリハット、インシデントレポート等の積極的な報告を促し、集約分析し、フィードバックを行うと共に予防対策に努めることができた。昨年に比べ書類（インシデントレポート等）の提出もスムーズになってきており職員の意識は高まったと思われる。

⑦笑顔あふれるイベント開催

・毎月何らかの季節を感じられるようなイベントを開催することが出来、入居者様からの喜びの声が聞かれた。今後も、入居者様に喜んで頂けるような行事計画を立てて行きたい。

資料参照

⑧家族会の実施

第1回目 令和 元年9月29日

内容：消費税増税に伴う介護保険制度の改定について
入浴介助について（浴室でのデモンストレーション）
・上半期の活動報告 ・意見交換会

*上記内容で実施した。意見交換会を行う事で、日頃のご家族の思い等を聞くことが出来、問題点が明らかになり今後のケアに活かせる事ができる良き機会になった。

第2回目 令和2年3月に予定しておりましたが、コロナウイルス感染防止対策の為中止いたしました。

3、施設内委員会活動

①身体拘束廃止委員会

・3ヶ月に1回開催しているが、元年度の該当者は0名であった。今後も身体拘束廃止に向けて研修等で意識付けを行っていく。

②安全対策委員会（法人リスク委員会）

・インシデント、アクシデント、ヒヤリハット等の集約分析等を行い、今後の予防対策に繋げる事が出来た。今後も継続して啓蒙活動を行っていく。

③褥瘡対策委員会

・褥瘡形成が数名発生していたが、集約分析には至らなかった。今後は褥瘡予防に努め褥瘡発生率を0にする事を目標にケアの充実を図っていく。

④感染対策委員会（法人感染症委員会）

・委員会ではマニュアルの作成やインフルエンザ予防に対する対策を職員はじめ面会者等に啓蒙活動を行ってきた。

（今年度インフルエンザ感染は入居者様・職員共に無かった）

⑤レクレーション委員会

・委員会メンバーを中心に、季節的な行事を毎月考慮し実施することが出来た。今後も入居者様の楽しみを見出すようなイベントを検討していく事が重要と思われる。

⑥教育委員会（法人研修委員会）

・委員会として施設内研修のフォローや新入職者への教育等が十分に出来ていなかった。今後、カリキュラムをきちんと整備し行っていく必要がある。また、法人研修会参加率も悪く職員の参加意識に欠けていた。今後は多くの職員が参加出来るように検討が必要と思われる。

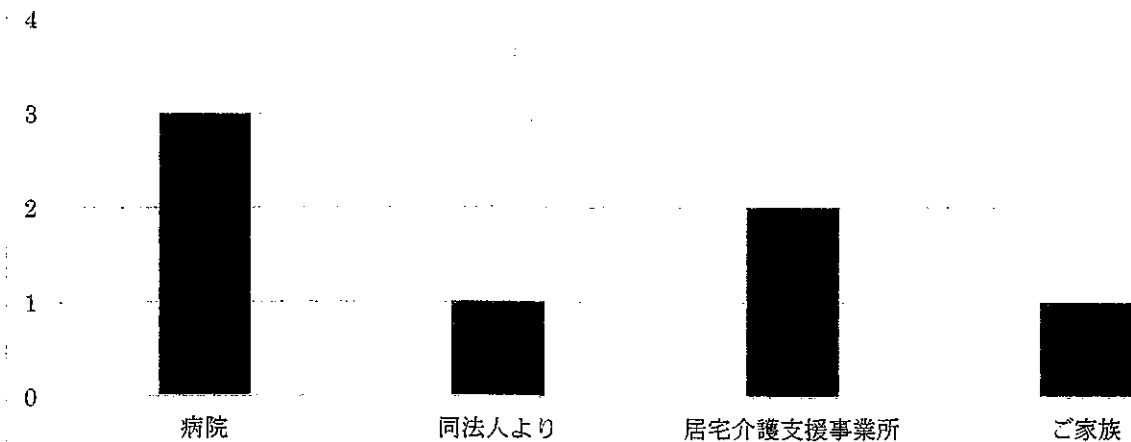
4、入居者確保及び収支安定の取り組み

I 入居者確保

・医療機関や同法人との連携を図り入居者獲得に努めた。空室が出そうな時は、早めに病院のMSWに情報提供を行った。結果、江南病院、西日本病院、セントラル病院からの紹介があり入居に繋がった。（3名）

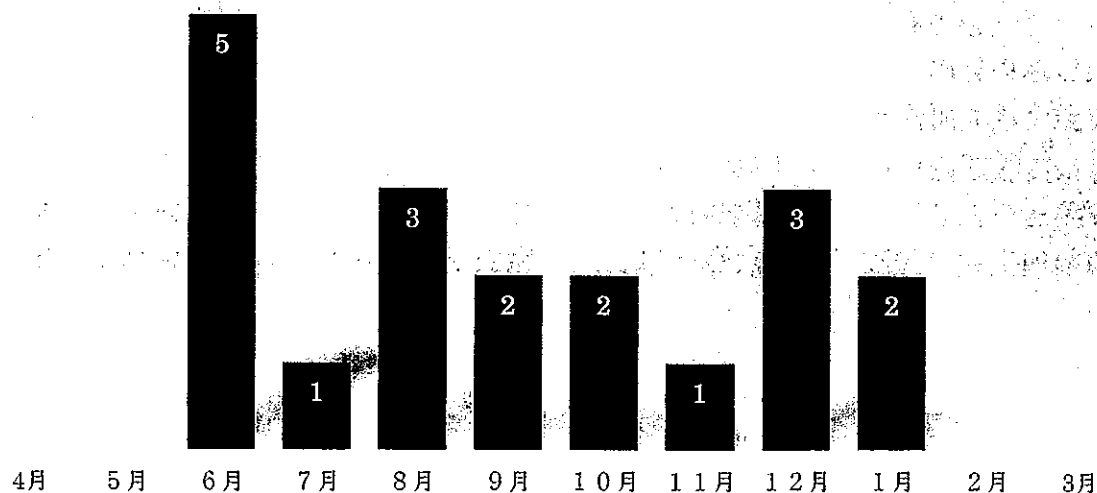
・同法人内との連携を図ることで1名の入居があり。居宅介護支援事業所からの相談やご家族からの直接の申し込みもあり、3名の方が入居された。今後も同法人との連携を密にし、地域の居宅介護支援事業所とも積極的に情報交換を行い、入居がスムーズに行える体制を構築していく事が重要。

令和元年度入居紹介元

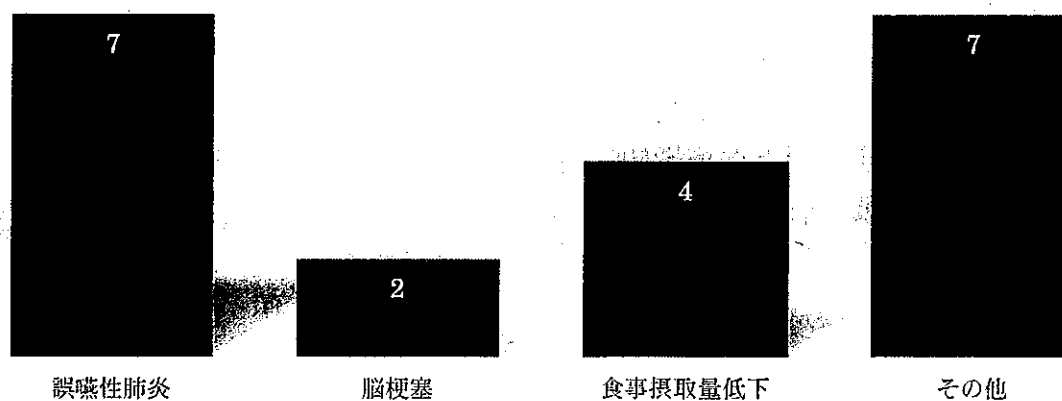


Ⅱ、入院の状況及び原因

入院



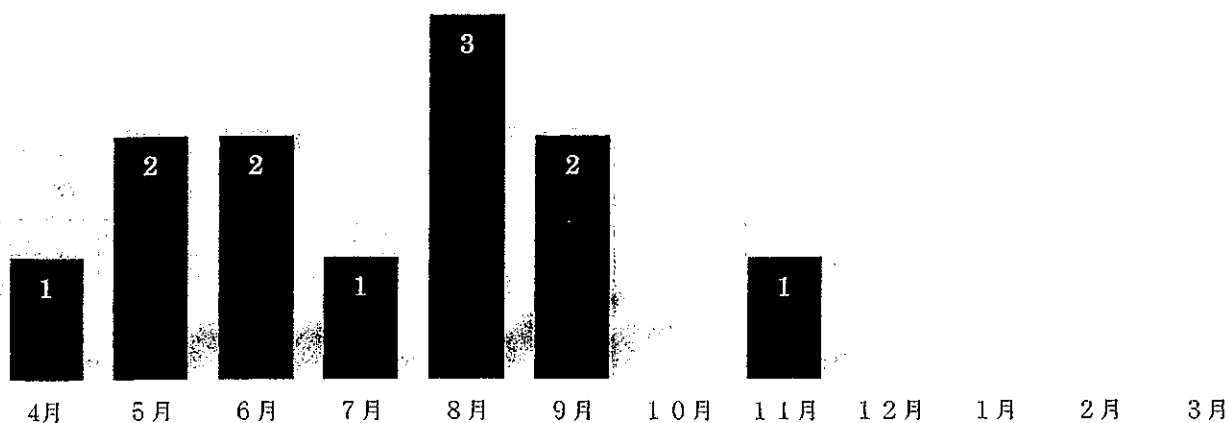
令和元年度入院疾患



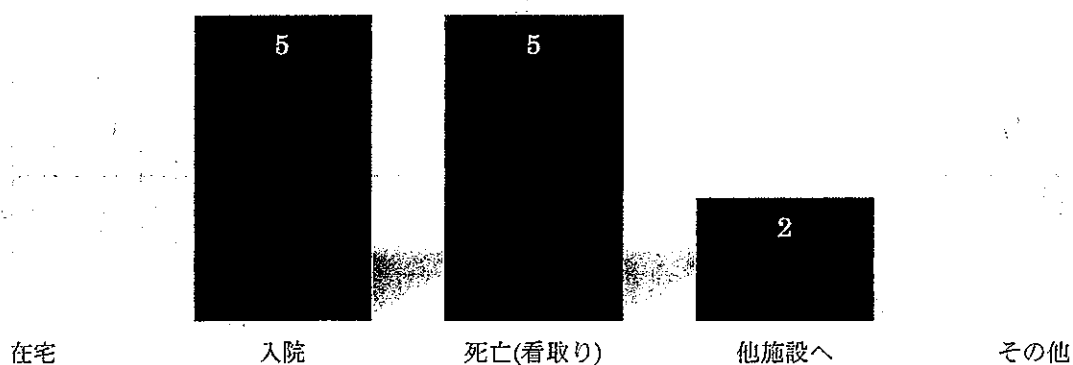
令和元年度は入居者の入院は 20 名ありました。上記のように誤嚥性肺炎での入院が多く見られました。食事形態の見直しや口腔ケアの徹底を図ることが重要であり、食事介助の必要な方、痰吸引の必要な方も多くおられる為、介護者のスキル成長や吸引等の専門的なケアが必要となっている。又、脳梗塞や食事摂取量の低下等、普段の様子をしっかりと把握しておくことで異常の早期発見に繋がり、入院者減少となるよう努めていく。

Ⅲ、退去者の状況及び理由

令和元年度退去者数



令和元年度退去理由



令和元年度は12名の退去者があり内訳は上記参照。

入院での退去（その後病院での死亡含む）、施設での見取り（死亡）が5名ずつおられた。今後も当施設の特徴からみて看取り対応の入居者が増加する傾向にあると思われる。

また、入院治療中の状態悪化にて亡くられるケースもあり、入院中の状態確認や病院との連絡も密に行い情報収集を行う。

IV、平成 30 年入居者状況

H30 年度	自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	延べ人 数
4月	0	0	0	9	9	5	9	9	41
5月	0	0	0	7	8	5	9	9	38
6月	0	0	0	8	7	7	9	8	39
7月	0	0	0	8	7	7	7	8	37
8月	0	0	0	9	6	6	7	8	36
9月	0	0	0	7	8	6	7	6	34
10月	0	0	0	6	8	5	7	6	32
11月	0	0	0	6	9	5	7	5	32
12月	0	0	0	7	8	5	6	7	33
1月	0	0	0	6	9	6	6	7	34
2月	0	0	0	6	7	6	8	7	34
3月	0	0	0	5	7	6	8	8	34
総数	0	0	0	84	93	69	90	88	424

令和元年 3 月 31 日現在

* 要介護度平均 3.01

* 入居者平均年令 91.53

VII、その他

1、令和元年度施設内勉強会 実施状況

4月	法令遵守	10月	看取りについて
5月	救急救命(AEDの使用 方法)	11月	救命救急(AEDの 使用方法)
6月	感染症対策 (食中毒)	12月	個人情報保護につい て
7月	身体拘束・虐待	1月	非常災害時の対応
8月	認知症及び認知症ケ アについて	2月	身体拘束廃止・虐待
9月	感染症対策 (インフルエンザ)	3月	接遇

*上記のように毎月テーマを決め、グループで担当し勉強会を実施することが出来た。同じ内容を2回実施することによりほぼ全員の参加を得られた。職員同士の連携が密になり自己研鑽の機会にも繋がったと思われる。次年度は内容にも意識をし、一人ひとりが考える力を養えるような勉強会を開催していきたい。

2、防火訓練(夜間想定)

1回目 令和元年10月16日 実施

2回目 コロナウイルスの為、未実施 ※終息後の実施を検討中

令和 元年度職員状況

入職状況

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
理者													0
生活指導員					1								1
介護職員													0
介護職員			1										0
能力訓練指導員													0
画作成担当者													0
計	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

* 令和元年度の入職者内訳は、生活相談員1名・介護職1名であった。

退職状況

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
理者										1			1
生活指導員													0
介護職員													0
介護職員			1			1			1			1	4
能力訓練指導員													0
画作成担当者													0
計	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	5

* 令和元年度は5名の退職者であった。

今後も離職防止に努めると共に、法人内での人事交流も含めた異動、適材適所の人員配置等を検討すると共に、新規職員募集にも努めていく必要があると考える。

令和元年度 「行事实施」

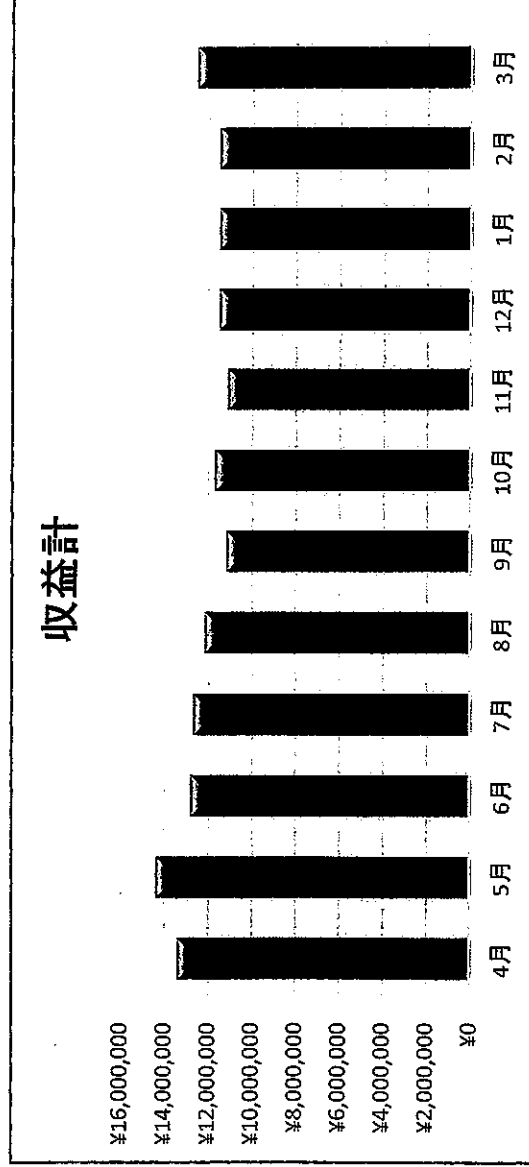
4月	花見外出ツアー (運動公園)	10月	運動会 家族会
5月	母の日(プレゼント渡し)	11月	個別にて近隣散歩
6月	父の日(プレゼント渡し)	12月	クリスマス会
7月	七夕会	1月	初詣 (健軍神社)
8月	夏祭り	2月	節分
9月	敬老会	3月	コロナウィルス感染防 止の為中止

※防火訓練(避難訓練)は令和元年10月28日 実施

※家族会 9月29日 実施

総計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
介護保険代	¥8,058,010	¥9,209,430	¥7,743,910	¥7,776,920	¥7,395,330	¥6,747,500	¥7,224,180	¥6,733,840	¥6,905,340	¥6,995,130	¥6,939,940	¥7,794,280	¥89,523,810	¥7,460,318
食事代	¥1,769,954	¥1,752,585	¥1,744,561	¥1,699,880	¥1,619,895	¥1,504,694	¥1,558,450	¥1,494,125	¥1,579,540	¥1,550,300	¥1,525,750	¥1,634,900	¥19,434,634	¥1,619,553
家賃代管理費	¥3,284,008	¥3,172,578	¥3,079,522	¥2,945,504	¥2,877,106	¥2,680,688	¥2,688,072	¥2,654,850	¥2,779,212	¥2,718,896	¥2,809,306	¥2,850,344	¥34,540,086	¥2,878,341
福祉用具	¥60,800	¥60,200	¥58,100	¥57,400	¥57,300	¥48,100	¥49,100	¥47,600	¥46,800	¥46,300	¥44,800	¥48,900	¥625,400	¥52,117
おむつ代	¥222,050	¥203,450	¥170,450	¥205,250	¥193,700	¥173,550	¥182,350	¥167,450	¥184,050	¥175,150	¥175,350	¥193,500	¥2,246,300	¥187,192
受診送迎等	¥12,000	¥9,000	¥15,000	¥12,000	¥18,000	¥14,000	¥7,000	¥9,000	¥25,000	¥31,000	¥17,000	¥30,000	¥199,000	¥16,583
計	¥13,406,822	¥14,407,243	¥12,811,543	¥12,696,954	¥12,161,331	¥11,168,532	¥11,709,152	¥11,106,865	¥11,519,942	¥11,516,776	¥11,512,146	¥12,551,924	¥146,569,230	¥12,214,103



平成31年度（令和元年度）
事業活動報告書

社会福祉法人 敬人会
特定施設 きらら

令和2年5月11日

1 基本方針

「利用者本位」

- ・入居者の希望を聞きプランに取り入れた。看取り期の入居者の希望で自衛隊パレードへの外出等行う事が出来た
- ・利用者の希望に応じた外出が多く出来た

「サービスの質の向上」

- ・苦情への対応・入居者の声や家族の声を苦情としてとらえ対応。書面に残し改善する事が出来た

「身体機能維持向上」

- ・個別機能訓練の開始。入居者 14 名個別メニューに取り組み評価している。家族の評価も良かった
- ・毎日、午前、午後のレクレーションの実施。集団レクでのストレッチで機能維持に努めた

収入目標 収入額 470 万目指していきます。

- ・今年度は終末期介護、看取り対応者 3 名やその他 GH、特養への転居がありその後、空室状態が多かった。営業活動を充実させ待機者を確保していく必要がある
- ・個別機能訓練加算の算定要件である人員基準満たし算定出来た
- ・福祉用具、車椅子、センサーマット等の福祉用具のレンタル代を徴収できないか運営懇談会で家族に説明を図ったが未だ検中

2 介護サービス提供計画

〔介護部〕

目標 身体能力のアセスメントを行い、過介助をしないことで本人の日常生活動作を下げないようにします。

I 介護計画（食事・排泄・入浴）

- ・情報の共有。ライン機能、タブレットを活用し、動画や写真でより詳細な情報を共有できた

II 安全対策の取り組み計画

アクシデント・・・23 件

ヒヤリハット・・・22 件（本年度より記入方法の見直し、月 50 件目標とした）

ヒヤリの中から重大な事故に繋がる誤嚥時の救急対応について勉強会実施。ロールプレイング体験しムービーで撮影し全員で検証した。疑似体験による、

気づき、意見が多く出て勉強になった。今後も継続していく。

Ⅲ 感染症防止体制の取り組み計画

インフルエンザ A 型 職員 2 名 入居者 2 名。インフルエンザ発生時の対応について周知、対策として面会謝絶にした

Ⅳ 行事計画

・計画企画 44 件中 43 件実施する事ができた。季節行事、外出、本館 4 階での食事会に関しては反応がいまいちだった。

・地域交流会として西原小学校による音楽合唱交流会が好評だった

・行事、イベント、状況をフェイスブックで投稿している

Ⅴ 業務の効率化

2F、3F 職員の勤務体制の変更。業務をスムーズに行う為にどちらも出来るような体制にした。今後もフロア会議の議題として取り上げ業務の効率化を図る必要がある

5 看護サービス提供計画

〔看護部〕

担当者会議に医療的な意見を求め看護師が参加している。終末期医療、看取り対応時は医学的知識から家族への報告は窓口を決めて、管理者、看護師から報告している

Ⅱ 感染症対策

インフルエンザ・ノロウイルス・感染性胃腸炎等の感染症を発症させないためポスターの掲示を行う。

Ⅲ 入居者の健康状態チェック

毎日のバイタル測定、体重管理、誤嚥性肺炎予防に取り組み入居者が健康で施設で暮らせるよう支援している。

Ⅳ 多職種との連携を密に行い、情報交換を行う。

(医療機関・協力医との連携)

ライン機能の活用

Ⅴ 介護職員に対して健康面での状態観察の指導

新人職員に関しては指導職員を決め統一した指導に努めた。今後、勉強会や外部研修に参加し研修機会を多くする必要がある

6 リハビリ計画

個別機能訓練の実施。残存機能を活用し、評価しメニュープログラムを変更している。

7 ボランティア受入計画

ボランティアとして 1 名傾聴を主に訪問された。

8 職員研修実施計画

特定協からの研修会参加。看取り、記録、口腔ケア、事例発表、身体拘束、ユマニチュードケア、等に参加した。今後も特定協との情報の共有を図りスキルアップに繋げたい

9 防災訓練計画

施設において年、2回実施

10 年間行事計画

年間行事報告			
4月	お花見 外出行事	10月	外出行事
5月	外出行事	11月	避難訓練
6月	避難訓練	12月	クリスマス会 運営懇談会（家族会）
7月	七夕会	1月	初詣
8月	夏祭り 運営懇談会（家族会）	2月	外出行事 節分会
9月	敬老会	3月	外出行事 ひな祭り会 運営推進会議（家族会）

※ 毎月、誕生日会。